「人工語」・エスペラント

会員　殷　勇基（48 期）

Saluton!（サルートン。こんにちは）
今回は，エスペラント語を御紹介したいと思います。
エスペラント語は，ポーランドの眼科医・ザメンホフ（1859-1917）が，1887年に提案した「人工語」です。espero（希望）＋anto（人）＝esperanto（希望する人）で，これはザメンホフのペンネームだったのですが，その後，「エスペラント」で，この言語を指すようになりました。

エスペラントでは，文法が16個だけに整理されていて，しかも文法や発音に例外がありません。熟達には時間を要するのは他の言語と同じ，と思っておくべきでしょうが，とはいえ，他の言語（例えば英語）と比較するなら習得がかなり容易，ということができます。

ザメンホフの提案後，エスペラントは，東アジアにもさっそく伝わり，ゆかりの人に，大杉栄，毛沢東，宮沢賢治，梅棹忠夫などをあげることができます。エスペラント話者は正確な数字は分かりませんが，世界中で数百万人，とされています。エスペラントを使ったり広めたりする運動をエスペラント運動といいますが，この運動では，エスペラントを「国際補助語」と位置づけるのが一般です。民族語を排除するのではなく，「補助語」として学び，使う，ということです。エスペラントをEUでの使用言語の一つにすることを目指す動きもあると聞きます。

16個の文法をいくつか紹介します。
●名詞 ⇒ 語尾にoをつける
●動詞（原形）⇒ 語尾にiをつける
adovokato（アドヴォカート。弁護士）
adovokati（弁護する）
になります。

●形容詞 ⇒ 語尾にaをつける
●副詞 ⇒ 語尾にeをつける
●nova（新しい）
●nove（新たに）
になります。

●動詞（現在形）⇒ 語尾にasをつける
●動詞（過去形）⇒ 語尾にisをつける
●動詞（未来形）⇒ 語尾にosをつける
ami（原形）愛する（こと）
amas（現在形）愛する
amis（過去形）愛した
amos（未来形）愛するだろう
Li amis ŝin（リ・アミス・シン。彼（li）は彼女（ŝi）を愛した。語尾のnは目的格。「〜を」,「〜に」の意味）になります。

エスペラントはどこで使うことができるのか，ですが，インターネットとは相性がよく，エスペラント学習のウェブサイトがあるほか，従来，エスペラントで文通をして交流していたようなことがインターネットでできるようになっています。オフライン，「対面」だと，数千人規模の世界エスペラント大会も毎年，開催されています（コロナ禍ではオンライン開催）。

エスペラントは既に100年以上，実用されており，当然ながら卑語もあり，新語もどんどん生まれています。他方，どのような民族語，「自然言語」であっても，とくにそれが国家語の場合，人工的な側面があり（たとえば日本語の「お母さん」ということばも明治後期に教科書に採用されて普及した，文部当局による新造語とのこと），そうすると，エスペラントだけを「人工語」と呼ぶのはミスリーディングなところもあります。

ザメンホフがエスペラントを提案した1887年は国民国家体制がヨーロッパで益々，盛んになり，民族紛争も激化していっていた時期です。世界で民族紛争が続いており，さらに「英語帝国主義」のような一部の言語の偏重の打破，「言語権」の尊重を考えたとき，そこに，「国際補助語」としてエスペラントの役割も増していきそうです。